

Q75

院内感染のアウトブレイクが起きた場合の患者家族への対応，マスコミへの対応のポイントについて教えてください。

A

この問題に関しては国立大学附属病院長会議や国立大学附属病院感染対策協議会のまとめたマスコミ対応の考え方が参考になりますので，まずこれらを引用しながら考えますが，あくまでも一つの参考であり，個々の現場の状況に鑑みながら臨機応変に対応したいものです。

1. 病院内集団感染に対する基本的考え方

国立大学附属病院長会議の常置委員会である医療安全管理問題小委員会は医療事故の原則公開を方針としています¹⁾が，一般に医療事故，医療過誤の判断は，事例とその原因が解明された後に総合的かつ客観的に判断されることが必要不可欠であり，その公表までには長い期間を要します。しかしながら，病院内集団感染発生とその原因および対策の公表は，上記の医療過誤，医療事故の判断・結論の公表とは別に先行して行うことが望ましいと考えます²⁾。その理由は，病院が公表しないままマスコミが早い時期から報道を行う事態が発生した場合，マスコミの姿勢は往々にして病院感染の責任論に偏りがちになるからです。その結果，患者を背にした医療者と読者を背にしたマスコミが対峙するだけとなって感情論が先行し，真の原因解明がおろそかになってしまう恐れが発生します。医療者(広報担当者)とマスコミとは，患者に対しても読者に対しても同じ地平に立って共に考え議論すべきです³⁾。

2. マスコミへの公表の方法²⁾

マスコミへの公表は速やかに行われるよう努めますが，一部のマスコミにのみ公表することは事態を混乱させるだけなので，可及的速やかにマスコミへ広く連絡した上で会見場にて行います。発表は病院長あるいはこれに準ずる立場の者，並びに感染対策の責任者が代表して行いますが，これによって情報源を一本化し，正確な情報を伝えることが出来ます。病院の広報担当者その他が個々のマスコミからの個々の取材に応じれば情報の混乱をきたし，その結果，憶測に基づく報道がなされかねませんので，個々の対応は行わないのが原則です。また，病院内集団感染発生とその原因および対策の迅速な公表は，経過を含めた報告が必要となる場合がありますので，複数回行うことによって迅速性と正確性が確保されます。

3. 患者家族への対応

これまで述べてきたマスコミへの対応のあり方が大きな参考となります。すなわち，速やかな公表と情報源の一本化であり，公表の継続・反復です。可能な限りマスコミへの公表と患者家族への対応を同時に行うか，あるいは事前の公表・説明が望ましく，事後の説明は不信感を生む可能性があります。また，集団感染の規模によっては説明する対象が数家族から数十家族にまたがる場合と様々ですが，基本的に個々の家族への説明は避けて一本化したいものです。その際の同席者はマスコミへの対応の場合より増やして感染制御看護師(ICN)など感染対策チームの構成員も加わるほうがよいが，広報担当者はマスコミへの対応者と同一者とします。

以上が患者家族やマスコミへの対応のあり方ですが，その際に公表する情報は綿密な，しかし時間を要するアウトブレイク調査によって得られます。調査のあり方については本稿の責務を越えており，他に優れたモノグラフがありますのでそれらを参照してください。

文献

- 1) 国立大学附属病院長会議の常置委員会医療安全管理問題小委員会：国立大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針．平成17年3月3日．
- 2) 白倉良太：国立大学附属病院感染対策協議会による病院感染の公表の原則とマスコミ報道への提言—2004—(案)．ICDニュースレター 2005; 6: 3
- 3) 白倉良太：病院感染と報道の役割．ICDニュースレター 2005; 6: 1-2

(渡辺 彰)